

日本教育大学協会附属学校連絡協議会開催

日本教育大学協会附属学校連絡協議会が6月1日(土)、お茶の水女子大学講堂で開催された。協議会の議長は加藤副会長(宇都宮大学教育学部教授)が務めた。

冒頭、村松泰子会長(東京学芸大学長)があいさつを行い、政権交代後の教育再生実行会議では、教員養成に関して実践型のカリキュラムへの転換や、初中教育に関しては、グローバル化に対応した教育、理数教育の強化、6-3-3-4制の見直し等さまざまなことが提言されていること、したがって、協会会員校の大学においても、附属学校園においても研究開発などに取り組むべき課題も多いと述べた。そして国立大学法人は国立大学時代よりも自由と責任は大きくなったとはいえ、国や文部科学省から注文や時には制約を受ける構造になっていることも確かであるが、認められた範囲の中で国立大学法人、あるいは附属学校園としてその特色を打ち出していくことが大事だと結んだ。

引き続き、文部科学省説明では、高等教育局大学振興課の鍋島豊教員養成企画室室長補佐から、①早期に警察へ相談・通報すべきいじめ事案について(通知)、②体罰の実態把握について(第1次報告)、③いじめの問題等への対応について(教育再生実行会議・第一次提言)、④教育委員会制度等の在り方について(同・第二次提言)、⑤これからの大学教育等の在り方について(同・第三次提言)、⑥教育再生等に関する文部科学省の取組について、⑦教育再生実行本部(自由民主党)「成長戦略に資するグローバル人材育成部会提言」、⑧同・第二次提言、⑨運動部活動の在り方に関する調査研究報告書、⑩認定こども園法改正に伴う幼稚園教諭免許状及び保育士資格の取得の特例について説明があった。また、大学振興課の君塚剛教員養成企画室室長補佐から、附属学校を取り巻く諸課題について説明があり、それぞれ活発な質疑応答が行われた。

文部科学省の説明後は、はじめに平成25年度日本教育大学協会事業計画(案)についての説明があり、最後に加藤副会長から、附属学校委員会のこれまでの取り組みについて報告があり、今年度の活動についても引き続きご理解・ご協力いただきたい旨依頼があった。



左から加藤副会長、村松会長、鍋島教員養成企画室長、君塚教員養成企画室室長補佐



村松会長



加藤副会長



鍋島教員養成企画室長



君塚教員養成企画室室長補佐